

全般について討議が行われたが、各大学の実情を話し合うのに大部分の時間が費されたので、今回の研究発表及び討議は収集というテーマにしばって行われた。

まず、午前中の**講義**は、林館長が講師となり、「英米独仏法とその基礎資料」という題目で行われたが、丁度林館長は英・独の図書館事情の視察を終えて帰国されたばかりなので、そのホットな体験も交えながら図書館職員のあり方にもふれ、図書館職員が単純に図書館（学）的発想により独善に走らないよう研究者との密接な連携が必要であること、また研究者に役立つサービスを行うためには、（すでに述べた）法学関係各資料（判例集や法令集及び索引等二次資料）を理解し、使いこなせるようにならねばならないが、そのためには、法学というものが他のあらゆる分野に関連する巾広い領域を持っており、同時に諸外国の法学をも研究せねばならず、そのためには、更にその国の制度も理解する必要があることを念頭において不断の勉強をせねばならない、という趣旨のことも述べられた。

午後の**研究発表**は、京大法学部図書室から「京都大学法学部における資料収集の現状と分析」、また大阪市大からは「法学系雑誌の収集；問題点とその対応策」というテーマで発表があった。

前者は京都大学法学部職員の検討結果をまとめたものであるが、選書システムの現状が述べられた後、研究図書館における収集の**問題点**として①

研究者個人単位の選書及び部門（または学部）単位の選書の是非。②法学系における基礎資料（法令、判例、議事録等）の適切な収集の必要。③教官以外の階層からの収書への反映と利用のあり方、（中央館との機能の分担が問題）。④収書について研究者との密接な連携。⑤選書基準（または収書方針）の検討。⑥館員の資質向上への努力と資料収集への積極的な関与等が詳細に述べられた。

後者は、まず大阪市立大学の法学部資料室の現状について説明があり、ついで法律系雑誌（継続の法令、判例集を含む）の収集に関し、現状、問題点、対応策が述べられた。**問題点**として、①追録（洋）の差替え「誰がするのか」。②SupplementやPocket Partの処理（備品扱いの場合・廃棄が困難）。③欠号の問題（予防と補充）。④予算不足。⑤保管場所の狭隘。⑥業務体制や人手の問題等が述べられ、また**対応策**として、①欠号補充のために雑誌目録の交換、重複雑誌目録の交換、相互貸借の実現。②分担購入。③価格について情報の交換。④各大学間の連絡体制づくり。等が考えられるとしている。

以上の研究発表が終った後、選書のシステムについて述べられた種々の問題について、またSupplementやPocket Partの処理に関する問題について活発な意見の交換が行われた。なお、最後に参加者全員がこのような会合をなんらかの形で残したいという希望を述べ、盛会のうちに終了した。

医学図書館員研究集会開かれる

去る8月23日から25日まで、本学医学図書館が担当館となって、楽友会館と医学図書館を会場として、第13回医学図書館員研究集会が開催された。この研究集会は、日本医学図書館協会主催、文部省後援によって、主として、医学図書館員歴3年未満の職員を対象に毎年行われ、今回で13回目を迎えたものである。受講者は、35館、44名。

この研究集会を開催するにあたっては、例年、担当地区（この3年間は近畿地区）を中心に、3月頃に実行委員会が構成されて、約半年間にわたる準備がなされる。受講者にも相当の努力が要請

される。当集会参加のための「事前レポート」の提出、事後には、日本医学図書館協会刊行の「研究集会論文集」への原稿提出が義務づけられている。

本集会の内容としては、メインテーマに「レファレンスワーク——IM及びEMによる文献検索法——」が設定された。第一日目は講義が中心で、(1)日本医学図書館協会の組織活動、(2)メディカルライブラリアンシップについて、(3)医学図書館資料論、(4)医学情報とオンライン検索サービスの各講義があり、(5)他に、本学医学部教官の特別

講演が行われた。第二日目、三日目は、実行委員会によって作成されたテキスト(IM, EM), 問

題集等にもとづいて「演習」が行われ、3日間の研究集会を終了した。

昭和53年度全国図書館大会に参加して

今年度は、10月12日(木)から14日(土)まで氷雨の降る青森市で、約1,300名参加のもとに開催された。

第1日目は開会宣言につづき、主催者として森戸辰男大会名誉会長より「国会に衆参両院250余人による図書議員連盟が設立されたり、国土庁が出した『第3次全国総合開発計画』の中にも図書館関係の政策が折り込まれており、我が国の図書館は今大きな転換期に差しかかっている。」との挨拶があり、浜田敏郎理事長は「国際経済の押し寄せる波にもかかわらず、今や世界的に生涯教育がさけられてきている。ここ東北でも文庫運動等の図書館活動が活発に行われている。また国家規模の図書館計画も企画され、いまや図書館問題も新しい組織と構築を点検し、実施されるべき時にいたっている。多くの利用者に新しい情報を適確に、かつ迅速に提供し得るようにするためには、地域や館種を越えた図書館ネットワークが必要である。それによって知的情報源の確立もできるのではないか。」と基調報告された。

記念講演は作家倉光俊夫氏が、「津軽に魅かれて」と題して東北地方の風土・人情・言葉について話をされた。

第2日目は「未来の知的情報をどうするか—21世紀に向っての図書館—」のテーマの分科会に出席した。大学図書館、専門図書館の人々を中心に350名以上の参加者で、会場を変更したほどの盛

況であった。田辺広氏外6名によるシンポジウム形式で討論が進められたが、図書館の未来像は、「エレクトロニック・ライブラリー」であり、「ポータブル・ライブラリー」であろう。文明が日一日急速に進歩するなかで図書館業務は、ますます機械化してゆくであろうが、導入にあたっては、組織をこえて、横のつながりを容易にし、「オンライン化することが大切である」という点に話は集中した。ますます増える二次情報の選別については図書館員の配慮が重要であり、利用者教育の必要性も強調された。図書館資源を拡充し、利用者がいつでも、どこでも、誰でも容易に資料を得られるようにし、活発に利用される理想の図書館にするためには、利用者と提供者、両者の協力と調和が大切で、その実現方法が図書館界の今後の大きな課題である。

最終日、閉会式は各分科会の報告が行われたが、公共図書館・地域図書館の活発な発言が内容とともに充実しており、また「障害者への図書館サービス部会」では、弱視者・視覚障害者へのサービスが大きくとりあげられていて報告者の熱意ある発言も印象に残るものがあった。

そして最後に聴いた郷土芸能高橋竹山師の津軽三味線のさえた音色とともに図書館大会は感銘深い三日間であった。

(法学部図書室 旭照子, 前田和子)

附属図書館商議会商議員名簿 (昭和53.11.1 現在)

議長	附属図書館長	林 良平	商議員	工学部長	西原 宏
商議員	文学部長	西田 龍雄	"	農学部長	坂本 慶一
"	教育学部長	蜂屋 慶	"	教養部長	上田 正昭
"	法学部長	片岡 昇	"	原子エネルギー研究所長	鈎 三郎
"	経済学部長	平井 俊彦	"	木材研究所長	樋口 隆昌
"	理学部長	林 忠四郎	"	経済研究所長	行沢 健三
"	医学部長	菅原 努	"	教授(文学部)	清水 純一
"	薬学部長	中垣 正幸	"	" (教育学部)	渡辺 洋二